

平成28年度
事業報告



人間を救うのは、人間だ。



平成 29 年 新潟県に赤十字が誕生して 130 年

当支部は今年、創立 130 周年を迎えることとなりました。明治 20 年に新潟委員部として設置され、以後、幾多の人道的支援事業を展開してまいりました。皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

目 次

| | |
|---------------------------|----|
| 第 1 災害救護 | 1 |
| 1 国内災害対応 | 1 |
| 2 災害救護体制の強化と充実 | 4 |
| 3 災害救護装備・資機材の整備 | 7 |
| 4 救援物資の備蓄と配分 | 7 |
| 5 災害死亡者弔慰金の贈呈 | 7 |
| 6 災害義援金の受付状況 | 7 |
| 第 2 生命と健康を守る講習 | 8 |
| 1 講習会の開催 | 8 |
| 2 指導員等の育成 | 10 |
| 3 指導員の資格継続適正審査 | 10 |
| 4 講習イベント | 11 |
| 第 3 国際活動 | 12 |
| 1 日本赤十字社が実施する国際開発協力事業への参加 | 12 |
| 2 海外救援金の受付状況 | 12 |
| 第 4 赤十字ボランティア | 13 |
| 1 赤十字奉仕団 | 13 |
| 2 赤十字防災ボランティアの育成と養成 | 16 |
| 3 赤十字奉仕団による子ども支援活動 | 17 |
| 第 5 青少年赤十字 | 18 |
| 1 人材及び教材等の支援 | 18 |
| 2 加盟校等の普及及び活動推進方策の協議 | 20 |

| | | |
|------------|----------------------------|----|
| 第6 | 広報活動 | 21 |
| 1 | 市町村等との連携による広報活動 | 21 |
| 2 | マスメディアを通じた広報活動 | 22 |
| 3 | プロスポーツチームとのパートナーシップによる広報活動 | 24 |
| 4 | インターネットを活用した広報活動 | 25 |
| 5 | 広報資材の配布 | 25 |
| 第7 | 交通安全帽交付事業 | 25 |
| 第8 | 活動資金の確保 | 26 |
| 1 | 社員制度（赤十字会員）の普及推進 | 26 |
| 2 | 活動資金（社費・寄付金） | 26 |
| 3 | 企業・団体とのパートナーシップ制度 | 27 |
| 4 | ハッピースマイルベンダー（募金型自動販売機） | 28 |
| 第9 | 医療事業 | 29 |
| 第10 | 看護師養成 | 29 |
| 第11 | 血液事業 | 29 |

第1 災 害 救 護

1 国内災害対応

(1) 平成28年 熊本地震災害

4月14日（木）21時26分頃と16日（土）未明の2度にわたり最大震度7を観測した熊本地震は、死者、負傷者等の人的被害に加え、家屋倒壊やインフラの破壊など甚大な被害をもたらしました。

また、大きな余震が続く中、多くの方々が長期間の避難生活を余儀なくされました。

日本赤十字社は、全国規模による救護体制を敷いて、被災者のニーズに応じた総合的・継続的な支援を実施しました。

当支部においても、下記により計32人の救護班要員等を派遣し、救護活動にあたりました。

ア 医療救護班 （派遣先：熊本県西原村）

(ア) 第一班

派遣期間：4月24日～26日

派遣人員：11人 長岡赤十字病院10人（医師3．看護師長1．看護師2．薬剤師1．主事3）、新潟県支部1人

(イ) 第二班

派遣期間：5月4日～6日

派遣人員：10人 長岡赤十字病院 9人（医師2．看護師長1．看護師2．薬剤師1．主事3）、新潟県支部1人

イ 日赤災害医療コーディネートチーム （派遣先：熊本県熊本市 他）

災害医療コーディネートチームは、災害救護活動において、自治体及び救護活動に携わる各種機関・団体と日本赤十字社をつなぐ調整役となります。

(ア) 第一班

派遣期間：4月27日～5月1日

派遣人員：3人 長岡赤十字病院（医師1．看護師1．薬剤師1）

(イ) 第二班

派遣期間：5月15日～ 19日

派遣人員：4人 長岡赤十字病院（医師1. 看護師長1. 主事2）

ウ 熊本赤十字病院 業務支援（医療支援要員の派遣）

(ア) 派遣期間：4月30日～5月4日

派遣人員：1人 長岡赤十字病院 事務職員

(イ) 派遣期間：5月11日～ 24日

派遣人員：1人 長岡赤十字病院 看護師

(ウ) 派遣期間：5月23日～6月5日

派遣人員：1人 長岡赤十字病院 看護師

エ 熊本県支部災害対策本部支援要員

派遣期間：4月22日～26日

派遣人員：1人 新潟県支部職員



熊本市内の救護所で被災者に対し診療をおこなう医療救護班医師

(2) 平成28年 糸魚川市大規模火災

12月22日(木) 10時20分頃、糸魚川市内で大規模火災が発生しました。焼損棟数は147棟(全焼120棟、半焼5棟、部分焼22棟)で、焼失面積は約40,000㎡にもわたり、被災者は120世帯、224人となる大火災となりました。

日本赤十字社新潟県支部は、発災直後から日赤糸魚川市地区と連携を図り、情報収集を行うための先遣隊(支部職員)と長岡赤十字病院から災害医療コーディネートチームを派遣、さらには、毛布等の救援物資を輸送し、避難所において被災者へ配分しました。

また、糸魚川市内の赤十字奉仕団は、救援物資の配分協力や支援物資の受付や仕分け作業等、各種の被災者支援活動にあたりました。

ア 新潟県支部先遣隊

派遣期間：12月22日～23日

派遣人員：2人 新潟県支部職員

イ 日赤災害医療コーディネートチーム

派遣期間：12月22日～23日

派遣人員：5人 長岡赤十字病院(医師1、看護師長1、看護師1、主事2)

ウ 赤十字奉仕団による活動

赤十字奉仕団活動については、第4 赤十字奉仕団に掲載。



糸魚川市の避難所で救援物資の運搬を手伝う新潟県赤十字安全奉仕団糸魚川市分団

2 災害救護体制の強化と充実

頻発する自然災害に対し、敏速な対応を実現できるよう救護体制を構築するとともに、あらゆる事態を想定した訓練・研修を実施し、救護にあたる人材の養成並びにレベルアップに取り組みました。

(1) 救護員の登録及び常備救護班の編成

※詳細は、資料編：統計「救護員の登録及び常備救護班の編成」に掲載

(2) 救護員等の訓練・研修会

ア 訓練

(ア) 日本赤十字社（新潟県支部・第2ブロック主催）

| 名 称 | 期日・開催地 | 参加者及び人数 | 内 容 |
|---------------------------------------|---------------------|--|--------------------------------|
| 日本赤十字社新潟県支部救護員訓練 (事務職対象) | 7月21日 長岡市 | 救護班要員（救護班主事） 9人 災害対策本部要員 3人 血液供給要員 1人 | 救護資機材の 取扱い習熟訓練 他 |
| 日本赤十字社新潟県支部救護員訓練 (医療職対象) | 10月14日～15日 新潟市 | 救護班要員 46人 災害対策本部要員 2人 赤十字防災ボランティア 3人 | 医療救護訓練 ボランティア活動訓練 |
| 日本赤十字社 第2ブロック支部 合同災害救護訓練 | 11月2日～4日 東京都 | 救護班要員（救護班1班） 7人 災害対策本部要員 2人 赤十字防災ボランティア 1人 | 医療救護訓練 |
| 日本赤十字社 第2ブロック支部 先遣隊要員訓練 | 1月25日～27日 新潟県湯沢町 | 新潟県支部先遣隊要員 2人 | 野営訓練 救護資機材の 取扱い習熟訓練 他 |
| 日本赤十字社 第2ブロック支部 被災地支部災害救護 訓練 | 3月2日 山梨県 | 新潟県支部災害対策本部要員 2人 | 被災地支部の災害対策本部運営 訓練 |

(イ) 国・自治体等主催

| 名 称 | 期日・開催地 | 参加者及び人数 | 内 容 |
|--------------------------|----------------|--|------------------------------------|
| 国土交通省 姫川・関川総合水防 演習 | 5月21日 糸魚川市 | 救護班要員（救護班1班） 6人 災害対策本部要員 2人 糸魚川市赤十字奉仕団員 12人 糸魚川市青海地区赤十字奉仕団員 12人 糸魚川市能生地区赤十字奉仕団員 10人 新潟県赤十字安全奉仕団糸魚川市分団員 5人 | 水害時の医療救護訓練 炊き出し訓練 防災教室 |
| 長岡市 総合防災訓練 | 10月23日 長岡市 | 長岡赤十字病院 DMAT 6人 長岡市赤十字奉仕団与板分団員 長岡アマチュア無線赤十字奉仕団員 新潟県赤十字安全奉仕団長岡市分団員 | 医療救護訓練 炊き出し訓練 無線通信訓練 防災教室 |
| 新潟県・新発田市 総合防災訓練 | 10月30日 新発田市 | 救護班要員（救護班1班） 6人 災害対策本部要員 3人 血液供給要員 3人 新発田市赤十字奉仕団員 24人 新潟県赤十字安全奉仕団新発田市分団員 8人 | 医療救護訓練 炊き出し訓練 防災教室 |

イ 研修会

| 名 称 | 期日・開催地 | 参加者及び人数 | 内 容 |
|--------------------------------|------------------|--|--------------------------------|
| 日本赤十字社 全国赤十字救護班研修 会（第1回） | 7月2日～4日 兵庫県 | 【研修指導者】 長岡赤十字病院 医師 1人 【研修受講者】 長岡赤十字病院 医師 1人 | 災害時医療救護活動に関する講義、実習、総合シミュレーション他 |
| 日本赤十字社 全国赤十字救護班研修 会（第2回） | 8月20日～22日 宮城県 | 【研修指導者】 長岡赤十字病院 医師 3人 看護師 1人 【研修受講者】 長岡赤十字病院 医師 1人 看護師 1人 事務職 2人 | |

| 名 称 | 期日・開催地 | 参加者及び人数 | 内 容 |
|-----------------------------------|-------------------|--|---|
| 日本赤十字社 全国赤十字救護班研修 会（第3回） | 10月8日～10日 東京都 | 【研修指導者】 長岡赤十字病院 医師 2人 看護師 3人 薬剤師 1人 事務職 1人 新潟県支部職員 1人 【研修受講者】 長岡赤十字病院 医師 1人 看護師 1人 | 災害時医療救護活動に関する講義、実習、総合シミュレーション他 |
| 日本赤十字社 災害医療コーディネー ト研修会（第1回） | 11月23日～24日 東京都 | 【研修指導者】 長岡赤十字病院 医師 1人 【研修受講者】 長岡赤十字病院 看護師 1人 薬剤師 1人 事務職 1人 | 医療救護班の調整及び他機関との調整に関する講義、グループワーク、総合シミュレーション他 |
| 日本赤十字社 災害医療コーディネー ト研修会（第2回） | 2月18日～19日 東京都 | 【研修指導者】 長岡赤十字病院 医師 1人 【研修受講者】 長岡赤十字病院 医師 1人 看護師 1人 新潟県支部職員 1人 | |
| 日本赤十字社 こころのケア指導者養成研修会 | 12月10日～12日 東京都 | 【研修受講者】 新潟県支部職員 1人 長岡赤十字病院 看護師 1人 | こころのケア研修会指導スタッフの養成 |
| 日本赤十字社 原子力対応基礎研修会 | 2月22日 東京都 | 【研修受講者】 長岡赤十字病院 医師 1人 | 緊急被ばく医療に関する基礎知識及び放射線防護資機材取扱い |
| 救護員としての看護師養成研修会 | 7月20日 長岡市 | 【研修受講者】 長岡赤十字病院 看護師 33人 | 赤十字救護班看護師となるための知識と技術の習得 |

3 災害救護装備・資機材の整備

効果的・効率的な災害救護活動を展開するために、救護員の装備と救護所資機材の整備を行いました。

※保有する資機材等の詳細は、資料編：統計「救護員の登録及び常備救護班の編成」に掲載

4 救援物資の備蓄と配分

避難所等において被災者が応急的に使用する救援物資の備蓄に努めるとともに、県内で発生した火災等の罹災者に対しても物資の配分を行いました。

※物資の備蓄状況及び配分状況の詳細は、資料編：統計「救援物資備蓄状況」「救援物資交付状況」に掲載

5 災害死亡者弔慰金の贈呈

県内で発生した火災等により亡くなられた27人のご遺族に対し、弔慰金を贈呈しました。

6 災害義援金の受付状況

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

| 名 称 | 金 額 |
|----------------------|--------------|
| 東日本大震災義援金 | 2,699,044円 |
| 平成28年熊本地震災害義援金 | 84,364,923円 |
| 平成28年台風10号等災害義援金 | 554,921円 |
| 平成28年鳥取県中部地震災害義援金 | 441,171円 |
| 平成28年新潟県糸魚川市大規模火災義援金 | 12,956,513円 |
| 合 計 | 101,016,572円 |

第2 生命と健康を守る講習

1 講習会の開催

(1) 救 急 法

病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人（傷病者）を正しく救助し、医師または救急隊員などに引き渡すまでの救命手当、応急手当の知識・技術を普及しました。

| 企 画 講習名 | 支部・施設 | 地区・分区・奉仕団 | 団体依頼 | 合 計 |
|------------|-----------|------------|-------------|-------------|
| | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) |
| 基礎 (単独) | 0 (0) | 10 (56) | 12 (270) | 22 (326) |
| 救急員養成 | 3 (83) | 21 (242) | 12 (525) | 36 (850) |
| 短 期 | 9 (240) | 18 (1,480) | 127 (5,467) | 154 (7,187) |
| 資格継続研修 | 0 (0) | 20 (253) | 3 (22) | 23 (275) |
| 合 計 | 12 (323) | 69 (2,031) | 154 (6,284) | 235 (8,638) |

(2) 水上安全法

水を活用して健康の増進を図るとともに、水の事故から尊い生命を守るための知識と技術を普及しました。

| 企 画 講習名 | 支部・施設 | 地区・分区・奉仕団 | 団体依頼 | 合 計 |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) |
| 救助員Ⅰ養成 | 0 (0) | 1 (20) | 0 (0) | 1 (20) |
| 救助員Ⅱ養成 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 短 期 | 1 (30) | 1 (23) | 3 (180) | 5 (233) |
| 資格継続研修 | 2 (12) | 1 (6) | 0 (0) | 3 (18) |
| 合 計 | 3 (42) | 3 (49) | 3 (180) | 9 (271) |

(3) 健康生活支援講習

健やかな老年期を過ごすための健康維持・増進と、高齢者の自立をめざした介護の方法などの知識と技術の講習を普及しました。

| 企 画 講習名 | 支 部 | 地区・分区、奉仕団 | 団体依頼 | 合 計 |
|---------------------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) |
| 支 援 員 養 成 | 3 (37) | 1 (4) | 0 (0) | 4 (41) |
| 資格継続研修 | 1 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (2) |
| 短 期 | 1 (68) | 22 (336) | 6 (588) | 29 (992) |
| 災害時高齢者 生活支援講習 ※ 再 掲 | 0 (0) | 8 (238) | 1 (60) | 9 (298) |
| 合 計 | 5 (107) | 23 (340) | 6 (588) | 34 (1,035) |

(4) 幼児安全法

子どもに起こりやすい病気への対応と、事故の予防や応急手当などの知識や技術の講習を普及しました。

| 企 画 講習名 | 支 部 | 地区・分区、奉仕団 | 団体依頼 | 合 計 |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) |
| 支援員養成 | 2 (39) | 7 (47) | 0 (0) | 9 (86) |
| 資格継続研修 | 2 (13) | 3 (10) | 0 (0) | 5 (23) |
| 短 期 | 6 (120) | 9 (161) | 32 (531) | 47 (812) |
| 合 計 | 10 (172) | 19 (218) | 32 (531) | 61 (921) |



(5) 防災啓発プログラム

自主防災訓練や研修会を通じ、地域で災害時に備えるために、受講者の希望する内容や時間に合わせて自由に選択し、防災に役立つ知識や技術を普及しました。

| 企 画 講習名 | 支 部 | 地区・分区、奉仕団 | 団体依頼 | 合 計 |
|------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) | 回数 (受講者数) |
| 短 期 | 0 (0) | 2 (124) | 9 (922) | 11 (1,046) |

2 指導員等の育成

| 区 分 | 研修会名称 | 回 数 (開催地) | 参加人数 | 主催者 |
|------------|---------|--------------------------|------|---------|
| 救急法 | 講師研修会 | 1 回 (東京都) | 2 | 日赤本社 |
| 水上安全法 | 講師研修会 | 1 回 (東京都) | 0 | 日赤本社 |
| | 指導員研修会 | 1 回 (新潟市) | 1 9 | 日赤新潟県支部 |
| 健康生活支援講習 | 講師研修会 | 1 回 (東京都) | 1 | 日赤本社 |
| | 指導員研修会 | 1 回 (新潟市) | 1 4 | 日赤新潟県支部 |
| 幼児安全法 | 講師研修会 | 1 回 (東京都) | 2 | 日赤本社 |
| | 講師養成講習会 | 1 回 (東京都) | 1 | 日赤本社 |
| | 指導員研修会 | 1 回 (新潟市) | 4 1 | 日赤新潟県支部 |
| 救急法等指導員研修会 | | 4 回 (新潟市・長岡市・上越市・佐渡市) | | 日赤新潟県支部 |

3 指導員の資格継続適正審査

救急法等の講習を指導する指導員は、認定証の有効期間（3年）ごとに資格の更新手続きを行います。この内、資格の更新が3回目毎にあたる指導員は、日本赤十字社救急法等講習規則施行細則に基づいて、必要な審査を受けます。

この制度は平成18年度から導入されており、平成28年度は救急法指導員7名、水上安全法指導員15名を対象に資格継続適正審査を実施し、全員が適性と認められ資格を継続しました。

4 講習イベント

(1) T e N Yみんなの防災フェア2016

10月1日(土)～2日(日)に株式会社テレビ新潟放送網(T e N Y)の主催で、ハイブ長岡で実施されました。赤十字安全奉仕団長岡市分団と長岡赤十字看護専門学校の青年赤十字奉仕団の協力のもと、一般の方を対象に「AED講習」や「風呂敷を使った防災ずきん」、「キッズフォトコーナー」、「救急車への試乗体験」などを行いました。



キッズフォトコーナー



AED講習コーナー

(2) 介護・健康フェア2016

11月13日(日)朱鷺メッセを会場に、新潟日报社・新潟県社会福祉協議会・新潟市社会福祉協議会が主催した「介護・福祉フェア」のイベントにおいて、日本赤十字社が実施している健康生活支援講習への理解・促進を図ることを目的に参画しました。毛布を使ったガウンやホットタオル等災害時に役立つ、高齢者生活支援のミニ講習を行いました。また「災害通信指令車の展示」等のブースを通じ赤十字活動の理解・促進を行いました。



健康生活支援講習の紹介



健康生活支援講習の実演

第3 国 際 活 動

1 日本赤十字社が実施する国際開発協力事業への参加

| 対 象 国 | 事 業 内 容 | 金 額 |
|-------|---|----------|
| ベトナム | 沿岸地域の国土保全 植林による災害対策自然環境 復元事業 | 500,000円 |
| ケニア | 地域保健師及びボランティア を軸とした住民ネットワーク の強化等、保健医療サービス へのアクセスを向上させるこ とを目的とした保健衛生事業 | 500,000円 |



生き茂るマングローブ @ケアンニン省



巡回診療（栄養状態測定）

2 海外救援金の受付状況

（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

| 名 称 | 金 額 |
|------------------|------------|
| 中東人道危機救援金 | 31,059円 |
| 2016年エクアドル地震救援金 | 3,351円 |
| 2016年イタリア中部地震救援金 | 31,744円 |
| 2016年ハイチハリケーン救援金 | 540円 |
| NHK海外たすけあい | 7,024,990円 |
| 海外無指定救援金 | 467円 |
| 合 計 | 7,092,151円 |

※「NHK海外たすけあい」は12月1日～12月25日まで、日本赤十字社、日本放送協会（NHK）、社会福祉法人NHK厚生文化事業団との共催で実施したものです。

第4 赤十字ボランティア

新潟県内では、約6,500人の方々が赤十字ボランティアとして活動しています。ボランティアの方々は、各地域の赤十字奉仕団等に所属され、災害時には、救援物資の配布や義援金の募集など、各種救護支援活動にあたりとともに、日常は高齢者福祉活動をはじめ、赤十字思想の普及や活動資金への協力呼びかけなど幅広い活動に取り組んでいます。

赤十字ボランティアは、赤十字の理念を実現するための重要なパートナーです。

1 赤十字奉仕団

(1) 糸魚川市大規模火災における対応

平成28年12月22日（木）に発生した糸魚川市大規模火災においては、糸魚川市内の赤十字奉仕団がいち早く活動を展開しました。日赤糸魚川市地区と連携した救援物資の配分を始め、糸魚川市社会福祉協議会が立ち上げた災害ボランティアセンターの運営補助、ボランティアの安全管理など、様々な支援活動を実施しました。

また、応急対応終了後もボランティアセンターの補助活動に引き続き従事し、被災者支援活動に取り組みました。

なお、糸魚川市内の奉仕団の他にも、県内各地の奉仕団が義援金募集活動を中心とした被災地支援の活動にあたっています。

ア 新潟県赤十字安全奉仕団糸魚川市分団

活動期間 12月22日～12月30日及び1月4日～1月9日

活動人数 延べ50人程度

活動内容 救援物資の配布、災害ボランティアセンター運営支援、ボランティアの安全管理 等



救援物資を運搬する奉仕団員



作業にあたるボランティアの安全管理

イ 糸魚川市赤十字奉仕団

糸魚川市能生地区赤十字奉仕団

糸魚川市青海地区赤十字奉仕団

活動期間 12月31日～2月28日

活動人数 3団合計 延べ161人

活動内容 支援物資の仕分け作業と被災者への配布 等

ウ 県内奉仕団による義援金募集活動



青年赤十字奉仕団員による義援金募集活動

(2) 会議・研修会

当支部では、奉仕団活動の推進を図るため、各種の会議や研修会を開催し、活動推進につながる情報提供や各種活動に必要な知識と技術の伝達に努めています。平成28年度においても、会議や研修会を通して、奉仕団活動の活性化を図りました。

※開催状況等の詳細については、資料編「奉仕団の育成関係会議・研修会」にて記載。



赤十字ボランティアリーダーシップ研修会におけるグループワーク



青年赤十字奉仕団による夏期防災キャンプでのハイゼックス炊飯袋の実習

(3) 救護・防災訓練参加

赤十字奉仕団の方々には各地域における防災訓練や支部が協力を依頼する救護訓練に参加いただいています。訓練を実施し参加することで、災害時には円滑な救護活動・支援活動を行うことができます。糸魚川市大規模火災においてもこうした訓練を実施していたことにより、支援活動を円滑にしたという成果が生まれました。

ア 国土交通省 姫川・関川水防演習

期 日 5月21日(土)

会 場 姫川河川敷(糸魚川市)

参加奉仕団 糸魚川市赤十字奉仕団

糸魚川市能生地区赤十字奉仕団

糸魚川市青海地区赤十字奉仕団

新潟県赤十字安全奉仕団 糸魚川市分団



赤十字奉仕団による
炊き出し訓練

イ 新潟県・新発田市総合防災訓練

期 日 10月30日(日)

会 場 アイネス新発田(新発田市)

参加奉仕団 新発田市赤十字奉仕団

新潟県赤十字安全奉仕団新発田市分団

ウ 日本赤十字社第2ブロック先遣要員訓練

期 日 1月25日(水)～27日(金)

会 場 旧 三俣小学校(湯沢町)

参加奉仕団 湯沢町赤十字奉仕団



第2ブロック先遣要員
との合同訓練

エ その他 各地区分区が主催する防災訓練への赤十字奉仕団による参加

2 赤十字防災ボランティアの育成と養成

現在、当支部では赤十字防災ボランティアリーダー4名、地区リーダー44名の計48名の方々が赤十字防災ボランティアとしてご登録されています。東日本大震災をはじめ、近年では糸魚川市大規模火災において、特に発災初期の情報収集やボランティアのコーディネートにあたっています。当支部では今後も、赤十字防災ボランティアの養成・育成を継続し災害時に備えた体制を整えていきます。

(1) 赤十字防災ボランティア活動推進検討委員会

赤十字防災ボランティアの育成や活動内容について検討・協議するため、赤十字防災ボランティアリーダーをはじめとした各奉仕団の代表者による会議を開催しています。

| 区 分 | 期 日 | 会 場 |
|-----|----------|------------------|
| 第1回 | 7月 2日(土) | 新潟県赤十字会館 5階 大会議室 |
| 第2回 | 8月19日(金) | 入徳館野外研修場 |
| 第3回 | 2月11日(土) | 新潟県赤十字会館 5階 大会議室 |

(2) 赤十字防災ボランティア地区リーダー研修会(兼 地区リーダー養成研修会)

平成26年度より再始動した同研修会は、実際の災害発生時を想定したものとして年々レベルアップしています。赤十字防災ボランティアの方々にこうした実践に即した研修に参加していただくことで、災害発生時の迅速な行動につなげています。28年度は、新たに3人の地区リーダーが誕生しました。

期 日 8月20日(土)～21日(日)

会 場 入徳館野外研修場(新潟市西蒲区)

参加者 赤十字防災ボランティア登録者及び候補者 36人



災害ボランティアセンターを想定したボランティア受入訓練の様子



救護資機材の取扱い実習



災害時の炊き出し実習



避難所運営についての机上演習

3 赤十字奉仕団による子ども支援活動

子ども・若者育成支援推進法（平成21年7月8日法律第71号）の目的に賛同し、児童養護施設の子どもたちを対象に、青年赤十字奉仕団が中心となって支援活動を行いました。

せきじゅうじ 花絵アクション

期 日 4月23日（土）

会 場 新発田市（花摘み）、長岡市・上越市（花絵作製）

参加者 児童22人 赤十字ボランティア20人

内 容 児童養護施設（2施設）に入所している児童と奉仕団員が、県の花「チューリップ」を使って花絵を作製。



花絵作製の様子



完成した花絵

第5 青少年赤十字

県内の青少年赤十字加盟校（小・中・高校）及びこども赤十字加盟園（幼稚園・保育園）の園児・児童・生徒が学校生活や日常生活の中で、人のいのちの大切さを学び、思いやりの心と自主自律の態度を育むことをねらいとして、様々な活動に取り組みました。

また支部から加盟校及び園に対し、活動に必要なリソースを提供し、活性化を図りました。

1 人材及び教材等の支援

（1）「防災教育」への支援

防災意識を広め高めることのできる青少年を育てるため、防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」の活用を学校教育現場で活用されるよう進めるとともに、防災教育授業、トレーニングセンター（夏期研修会）等に職員や赤十字ボランティアを派遣しました。



全校集会で災害からいのちを守る講義



トレーニングセンターでの炊き出し体験

(2) キャリア教育への支援

児童・生徒が「夢や目標について自ら考え、課題を見つけ、選択できる力を育てること」を目標に、地域パートナーシップを組むプロスポーツチーム（新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ）からの協力を得て、加盟校へ選手の派遣を行い、特別授業を実施しました。



自分の夢と目標を語る選手



キャッチボールによる選手と児童との交流

(3) 「国際理解」への支援

インターネット電話を活用し、新潟とネパールの同世代の子どもたちと交流できるプログラムを実施しました。お互いに学校での流行や興味があること、地震災害を経験して学んだことなどを幅広い分野でコミュニケーションを図りました。



積極的に意見を発言する新潟のメンバー



ネパールのメンバー

(4) 教材及び資材の提供

ア 青少年赤十字加盟校に対し、子ども向けの教材（青少年赤十字機関紙）や教職員向け機関紙（指導情報）等の教材を提供しました。

また、こども赤十字加盟園に対し、教材となる絵本を提供するとともに、通園かばんに付けるネームプレートを配布しました。

イ 青少年赤十字加盟校の小学校1年生に対し、災害時に適切な行動をとることができるよう「赤十字防災かるた」を寄贈しました。これは、子ども達が、繰り返し遊ぶことで、読み札の内容を覚え、身につくことを期待し当支部が独自に作製したかるたです。

また、県内の赤十字奉仕団等へジャンボかるたの貸し出しを行いました。



2 加盟校等の普及及び活動推進方策の協議

支部嘱託指導講師による学校訪問を行い、青少年赤十字活動の周知と理解促進を図るとともに、本社・第2ブロック支部が主催する会議や研修会に、加盟校等の教職員から参加を得て、今後の活動推進方策について協議・検討を行いました。

第6 広 報 活 動

赤十字の使命と役割、活動内容等について周知し、赤十字に対する県民からの一層の理解と協力を得ることを目的として、様々な広報媒体やイベント等の機会を通じて広報活動を行いました。

1 市町村等との連携による広報活動

(1) 赤十字PRポスター、広報紙

ア 赤十字PRポスター

- (ア) 自治・町内会の掲示板等への掲示
- (イ) 企業・団体等への掲示

イ 赤十字PR広報紙

- (ア) 自治・町内会を通じて、県内全世帯へ個別配布
- (イ) イベントや講習会等を通じて、参加者へ配布

(2) 活動内容等の情報提供

ア 市町村広報誌等へのイベント情報等の提供

イ 赤十字新聞の送付（本社作成 毎月発行）

ウ 「日赤にいがた」広報紙の送付（当支部作成 年1回発行）

(3) 赤十字PRブースの出展

ア 地区・分区の赤十字デーの行事

- (ア) 第19回 新潟市民健康福祉まつり（新潟市一日赤十字デー）
- (イ) 第19回 福島潟自然文化祭（新潟市北区一日赤十字デー）
- (ウ) 第10回 東区区民ふれあい祭（新潟市東区一日赤十字デー）
- (エ) 第19回 ふれ愛春まつり（新潟市江南区一日赤十字デー）
- (オ) 第15回 にいつ花ふるフェスタ（新潟市秋葉区一日赤十字デー）
- (カ) 南区風フェスティバル&産業まつり（新潟市南区一日赤十字デー）
- (キ) 西っ子ふゆまつり（新潟市西区一日赤十字デー）
- (ク) 越後にしかわ時代激まつり（新潟市西蒲区一日赤十字デー）

イ 長岡赤十字看護専門学校「むつみ祭」

ウ 各種団体、町内会等が実施する行事



イベントでの赤十字事業PR



一日赤十字デーにおける救急法の体験

2 マスメディアを通じた広報活動

[illegible]

赤十字活動PRおよび活動資金への協力依頼を行いました。

(1) 新聞 記事広告 (全7段モノクロ) 7月23日 新潟日報朝刊

(2) テレビ 記事広告

- ・ 放送日 11月19日 UX「ランランUX」紹介：60秒
11月29日 TeNY「Oh！すすめTeNY」紹介：60秒
11月30日 BSN「とれたて情報館」紹介：60秒



- ・ 放送日：11月22日 NST「情報LIVE グッディ」紹介：60秒



・12月4日 新潟日報朝刊内における振込用紙付新聞折込広告

苦んでいる人びとを救うために、これらの活動を行っています。

**いまでも、これからも。
そのとき
すぐに駆けつけるために。**

あなただけの寄付は、災害が発生したとき、医療救護隊を派遣し、迅速な救護活動をを行うために活用されています。



**また、一人、
命を救える人が
ふえています。**

あなただけの寄付は、AEDや救急箱など、救命につながる諸設備の実施に活用されています。



**苦しみを減らすため
被災者のもとへ。**

あなただけの寄付は、緊急セットや配布など、救護物資を信寄・配分するために活用されています。



日本赤十字社の活動資金にご協力をお願いします。

あなたの気持ちが大きな支援につながります

■あなたの寄付が被災者の救済に



医療品等約2万円(税別)
＝ ¥3,000



医療品等約1万円(税別)
＝ ¥2,000



医療品等約1万円(税別)
＝ ¥1,300

■被災地医療支援活動に迅速に対応するための整備



救急車 (救急診療所) 整備費
(医療品等約2万円(税別))
＝ ¥2,300(税別)



救護員 約50名
(約50名)

今後、想定される大きな災害への備蓄は、まだまだ足りません。ひとりでも多くの人を救うために、あなたの支援をお待ちしております。

＜ご注意＞

- この取組は、救護に使用し、また、その結果として、被災者に対する救済、被災地に対する支援に活用されるものであり、被災者に対する救済、被災地に対する支援に活用されるものではありません。
- この取組は、救護に使用し、また、その結果として、被災者に対する救済、被災地に対する支援に活用されるものではありません。
- この取組は、救護に使用し、また、その結果として、被災者に対する救済、被災地に対する支援に活用されるものではありません。

●この取組は、救護に使用し、また、その結果として、被災者に対する救済、被災地に対する支援に活用されるものではありません。

赤十字へのご寄付には、
税制上の優遇措置や表彰制度が
設けられています。

活動資金のご協力方法

お電話で
025-231-312

インターネット・メール・郵便から
お申し込みください。

※お申し込みの際、お申し込みの旨を明記してください。

赤十字へのご寄付には、
税制上の優遇措置や表彰制度が
設けられています。

●この取組は、救護に使用し、また、その結果として、被災者に対する救済、被災地に対する支援に活用されるものではありません。

赤十字へのご寄付には、
税制上の優遇措置や表彰制度が
設けられています。

– 24 –

4 インターネットを活用した広報活動

当支部ホームページ等を活用し、タイムリーな情報提供に努めました。

- (1) 当支部主催のイベント告知
- (2) 日赤地区分区が実施するイベント等の告知
- (3) 当支部並びに日赤地区分区が行った事業報告等
- (4) 国内義援金、海外救援金募集案内及び実績報告

5 広報資材の配布

赤十字運動月間及びイベント等でPR資材を配布しました。

- (1) 赤十字ポスター、赤十字PRチラシ
- (2) ポケットティッシュ、救急絆創膏
- (3) 赤十字×ハローキティグッズ

第7 交通安全帽交付事業

児童を交通事故から守るとともに、地域、家族ぐるみの交通安全意識を啓発することを目的に、小学校新入学児童に対して「黄色い交通安全帽」を交付しました。

1 交付数 約20,000個

2 事業実施主体 新潟県交通安全帽交付
事業協議会

(新潟県、市町村、日赤県支部の三者で構成)



第8 活動資金の確保

1 社員制度（赤十字会員）の普及推進

個人社員数は、前年度に比して1.4%、5,591人の減少となり、法人社員数は、前年度に比して5.1%、116社の減少となりました。

| 区 分 | 平成 28 年度 | 平成 27 年度 | 増 減 | 前年度比 |
|-------|-----------|-----------|---------------|-----------|
| | (A) 人 / 社 | (B) 人 / 社 | (A)-(B) 人 / 社 | (A)/(B) % |
| 個人社員数 | 400,975 | 406,566 | △ 5,591 | 98.6 |
| 法人社員数 | 2,168 | 2,284 | △ 116 | 94.9 |
| 合 計 | 403,143 | 408,850 | △ 5,707 | 98.6 |

2 活動資金（社費・寄付金）

社資収入は、前年度に比して13.6%、40,403,783円増の336,980,700円となりました。

社資（社費・寄付金）実績額一覧

| 区 分 | 平成 28 年度 | 平成 27 年度 | 増 減 | 前年度比 |
|--------------------------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| | (A) 円 | (B) 円 | (A)-(B) 円 | (A)/(B) % |
| 個人社資 ① | 278,699,740 | 265,663,933 | 13,035,807 | 104.9 |
| (1) 地区分区扱 | 250,137,226 | 252,071,792 | △ 1,934,566 | 99.2 |
| (2) 支部扱 | 22,951,042 | 7,971,141 | 14,979,901 | 287.9 |
| (内訳) 寄付金 | 22,425,723 | 7,463,240 | 14,962,483 | 300.5 |
| 募金型自販機 | 525,319 | 507,901 | 17,418 | 103.4 |
| (3) 口座引落 | 3,450,000 | 3,482,000 | △ 32,000 | 99.1 |
| (4) クレジットカード決済 | 2,161,472 | 2,139,000 | 22,472 | 101.1 |
| 法人社資 ② | 58,280,960 | 30,912,984 | 27,367,976 | 188.5 |
| 小 計 ①+② | 336,980,700 | 296,576,917 | 40,403,783 | 113.6 |
| 海外救援金 ③ (地方税法指定寄付金) ※ | — | 7,203,018 | 7,203,018 | — |
| 合 計 ①+②+③ | 336,980,700 | 303,779,935 | 33,200,765 | 110.9 |

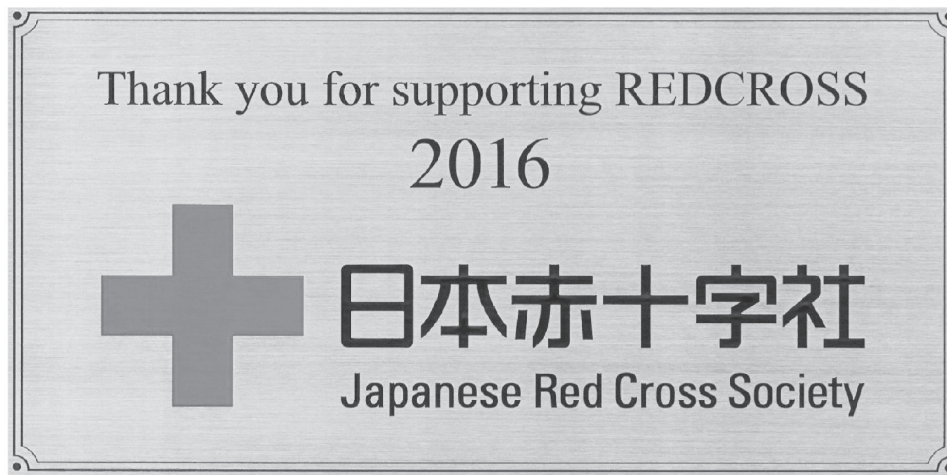
※支部国際活動基金に積み立てられる救援金については、個人住民税の寄付金税額控除の対象となるため、指定事業社資収入に計上される。

3 企業・団体とのパートナーシップ制度

赤十字活動資金への協力額に応じて、社会貢献プレートの贈呈や当支部ホームページへの掲載を行い、企業・団体の皆様とのパートナーシップによる活動資金の確保に努めました。

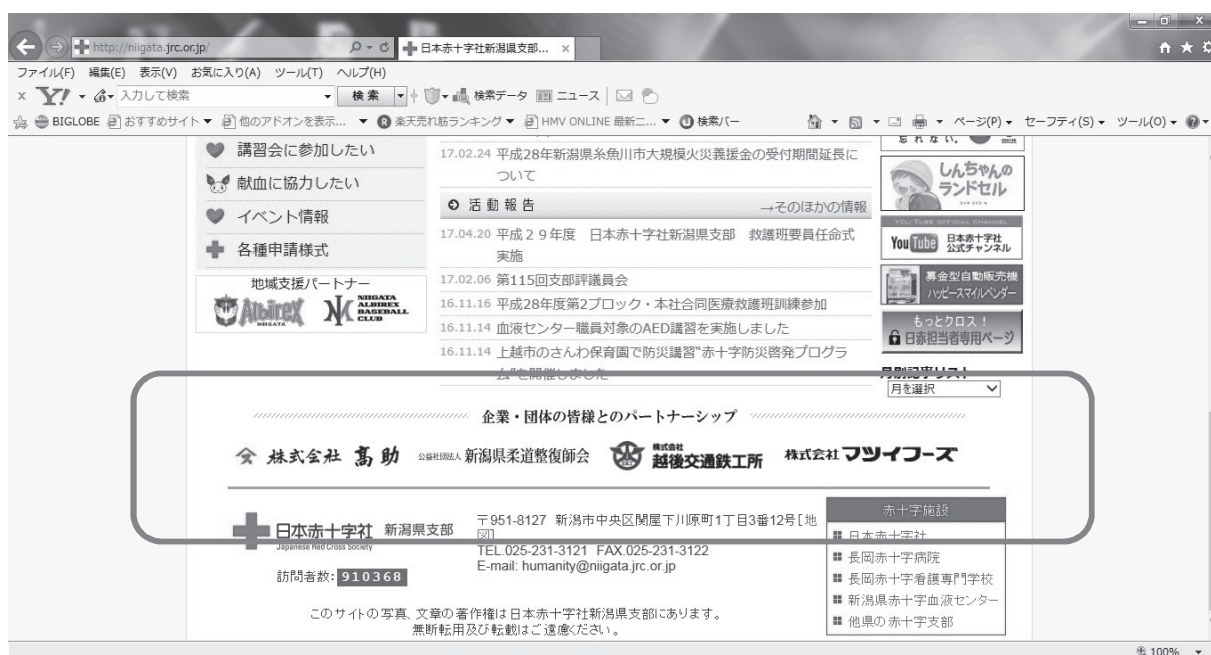
- ・社会貢献プレート（協力額 3 万円以上の企業・団体へ贈呈）

【平成 28 年度実績：115 社（団体）】



- ・当支部ホームページ（協力額 10 万円以上の企業・団体名を掲載）

【平成 28 年度末現在：29 社（団体）】



4 ハッピースマイルベンダー（募金型自動販売機）

企業との協働により、募金型自動販売機の設置を推進し、活動資金の確保に努めました。

【平成28年度末現在 設置台数：45台】



募金型自動販売機

第9 医 療 事 業

長岡赤十字病院においては、多様化する医療のニーズに対応しながら、地域医療支援病院や救命救急センター・総合周産期母子医療センター・基幹災害拠点病院等をはじめとする高度で専門的かつ安全・安心な医療の提供に努めてまいりました。

第10 看 護 師 養 成

長岡赤十字看護専門学校においては、医療に対する国民のニーズが拡大・多様化してきていることから、保健医療の分野で幅広く活躍できる資質の優れた看護実践者を育成し、災害時の救護活動にも対応できる看護師を養成しました。

| 学 年 | 1 年 生 | 2 年 生 | 3 年 生 | 計 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 学生数 (人) | 4 9 | 4 4 | 4 5 | 1 3 8 |

第11 血 液 事 業

新潟県赤十字血液センターにおいては、「血液法」等の関係法令を遵守し、安全な血液製剤の安定供給の確保及び献血者の安全確保に努めました。

献血者数は、輸血による副作用軽減を目的として400mL献血率の向上等に取り組み、88,977人（前年度比99.6%）で389人の微減となりましたが、効率的な事業運営を推進しました。

また、血液製剤供給数は、339,977単位（前年度比95.3%）と減少しましたが、医療機関からの要請には不足することなく安定的に供給することができました。

今後についても、一層効率的な事業運営に取り組んでまいります。

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。